

UNICORNとGroveのロゴデザイン

グラフィックデザイナー／武蔵野美術大学教授 白尾隆太郎

書籍を制作する編集部やデザインを担当する側は、こういった紙面でデザインについて語る機会は、あまりなかったかもしれない。

これまで何らかの形でディレクションとデザインをしてきたのだが、新課程用教科書では、ソフトウェアの進歩により、画面で見たままが紙面のデータになる、まさに WYSIWYG (What You See Is What You Get) そのままの形で最終原稿入稿まで編集作業が進められた。

デザインにアップル社の Macintosh が導入され、私もかれこれ 20 年以上使用して来たが、編集デザインソフト (Adobe InDesign) の完成度の高さは、さまざまな淘汰を繰り返しながら進化して来たその歴史があってこそ、ここまで到達できたと思えるほどであった。

またこれまでの編集作業では、コピー紙は必需品だった。1冊の本が完成するまでには、膨大な紙が消費され、終わったときには罪悪感を感じるほど大量の紙を捨てることになるのであるが、今回は PDF によるメールのやり取りが主になり、プリントする意味がなくなってしまったので

ある。紙資源の節約にささやかながら貢献できたかもしれない。

今回はロゴデザインも一新した。書名も新しい Grove は木立とか果樹園といった意味になる。ロゴデザインを考える上では、具体的な意味があった方がとても考えやすい。「成長」や「実り」といった意味をどのように形に組み込むか、下の表紙の写真はモノクロで少しわかりにくいかもしれないが、「r」の小さく飛び出した部分を、幹から生えた葉のようにしてみた。

UNICORN は、文英堂の教科書の中ではスマートバージョンであり、以前より「宇宙」とか「地球環境」といったグローバルな印象を持っている。ネオンのようなイメージのクールで硬質なブルーがピッタリだと思った。

これまでのように印刷所に実制作の大半を委ねるやり方ではなく、制作の一から十まですべて手元で制作することによって、労力も倍増したのだが、全体をイメージしながら、表紙やロゴのデザインをすることが出来た。高校生にその気持ちが届けられると嬉しいのだが…。

